
見えない腕

わるる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見えない腕

【Nコード】

N9129A

【作者名】

わるる

【あらすじ】

主人公は、初めてメル友に会います。メル友は、一癖も二癖もある女の子……

（前書き）

会話重視？

今日、白石隆史は初めてメル友に会った。
彼女、林美鈴には、両腕が無かった。
しかも、肩からばっさりと。

「あのさ……」

隆史は、飲み終わったホットコーヒーのカップを置いた。
美鈴は、静かにサラダを食べている。

フォークが宙に浮いている。

「どうなってるの？それ」

彼の声は少し震えている。

同じ喫茶店の客も、目を丸くして、彼女の方を見ている。

「前にメールしませんでした？私に両腕が無いつて」

「いや、そうじゃなくって」

隆史は、平然と浮かんでいるフォークを見つめた。

それは、皿の中の野菜を刺し、彼女の口へ持っていく、という動作を続けていた。

まるで、ちゃんとフォークを握っているかのような動きだ。

「ああ、これですか。幻肢ってやつですよ」

幻肢……足を切断した人が、無いはずの部分の痛みを感じる現象……

「明らかに違うよね、それ」

「そうですか？似たようなものだと思いますが」

――絶対に違う

隆史はそう思った。

しばらく沈黙。

美鈴は、黙々とサラダを食べ続ける。

3皿

4皿

5皿

6皿

……

「食べ過ぎだよね」

隆史は呟いた。

「ベジタリアンなんですよ」

「そんな問題じゃないよね」

「私の胃袋は宇宙なんです！」

「古いよ、それ」

更に沈黙。

美鈴が10皿目を余裕で完食した時、隆史が口を開いた。

「どうして、そんな事出来るの？」

「うーん、事故で切断して、目が覚めた時には、もう出来たんですよ。」

感覚もちゃんとありますし。

いまだに、腕を失った自覚が無いんですよ。

触ってみます？」

隆史は、目の前に突き出された（ような気がする）、彼女の左腕に触れてみた。

「ちゃんと腕の感覚がある。しかも暖かい。」

隆史は、訝しげな表情をした。

「ひよっとして、信じていないんですか？」

美鈴は少しむくれた。

「いや、確かに信じられないけど、目の前でこうして見せられるとねえ……」

信じるしかないでしょ。

しかも、今まで俺とちゃんとメールをしていたわけだし」
「それに」

彼女は彼の言葉をさえぎった。

「隆史さんの右足だって、同じじゃないですか」

彼女は、彼の右足首……ジーンズの裾と靴の間を見つめた。

「あ、ばれてた？」

（後書き）

オチがワンパターンしかない気がしてきました……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9129a/>

見えない腕

2010年10月11日01時31分発行